

2006 K-CAPPIC SUMMARY

～ The Willing Wanted! ～

平成18年度文部科学省大学改革推進事業「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」において産科婦人科長井上正樹教授を施行責任者として申請された金沢大学の「周生期医療専門医養成支援プログラム」が選定された。プログラム内容は産科・小児科を中心とした周生期医療を担う診療科の専門医を養成することを目的とする取組である。

近年の急速な少子高齢化が進む中で、産科、小児科領域の人材不足が深刻な問題となっている。特に過疎地域では、出産や子育てが不可能な状態が発生しつつあり、医師の不適正配置・診療科の偏りの是正が社会から強く求められている。将来を担う次世代の健全な育成をサポートする医療体制を崩壊させないために、新たな人材を育てる魅力ある教育プログラムを構築することは危急の課題である。そこで「妊娠・出産・新生児・乳児期」を次世代育成の極めて重要度の高い医療領域と捉え、新たに“周生期”と定義づけし、これら領域において高い専門性と初期救急に対応できる幅広い知識・技能を有する医師の養成・充実を図ることを目的として取り組むことになったのがこのプログラムである。医学部学生の志を大切に育み、維持し、学生が研修医・専門医へと成長するまでの一貫した支援体制を構築することにより、一人でも多くの産科、小児科の専門医を養成していくことが本取組の教育目標である。

本取組みの骨子をなすものは周生期医療に“志”のある医学部学生を公募・選抜し、指導教員・研修医とともに研修チームを編成して石川県内外の病院を循環する合宿研修に加え海外提携病院で短期研修を行う循環型合宿研修、及び卒業後研修医に周生期医療領域の教育研修を行う周生期医療専門医養成研修である(図1)。

プログラム実施に向けて平成18年10月に周生期医療専門医養成センター(Kanazawa University, Center for the Advancement of Pregnancy, Perinatal, and Infant Care: K-CAPPIC)が研究棟6階に開設された。特任教員として産科婦人科新井隆成医師、小児科井上雅之医師、そして国際教育コーディネーターエリックスチュワート氏が着任した。

まず K-CAPPIC は金沢大学医学部生の意識調査をおこなった。アンケート結

果から、多くの医学部学生が周生期医療の分野に強い関心を示していることが明らかになった（図2）。様々な社会背景の中で周生期領域を若い医師が敬遠している中、これは意外な結果ではあったが、周生期を学びたいという志をもった多くの医学生をしっかりと育成していくことが現状を打開する一つの方向性であることが確認された。

生命と向き合う周生期医療に志のある学生を公募・選抜し、その志を育むために、臨床現場での先輩医師との関わりを今まで以上に密にし、臨場感を持って周生期医療を学び専門医として養成していくためのプロジェクトがスタートした。研修参加希望学生、4年生から6年生を対象に募集した結果、予想を大きく上回る35名もの申し込みが殺到した。Problem Based Learning(PBL)と医学英語教育を導入した週2回朝7時からのモーニングセミナーは活気を帯びたものとなった。さらに後期研修医のプログラム参加が決定した。新しいプログラムに真剣に取り組むことは若い力を呼び込む強いアピールになることがすぐに反応として現れ始めた。現研修マッチング制度においても各医療機関が魅力ある研修プログラムを構築すべくしのぎを削っている。しかし実際の医療現場では指導医は多忙のため、研修医のニーズに応えきれていないのが現状である。魅力あるプログラムを提示し、新しい人材を集めるだけでなく、彼らの声に真剣に耳を傾けながら充実した研修環境を維持して行くことが今の周生期医療現場には求められている。若い“志”を育てていくために！

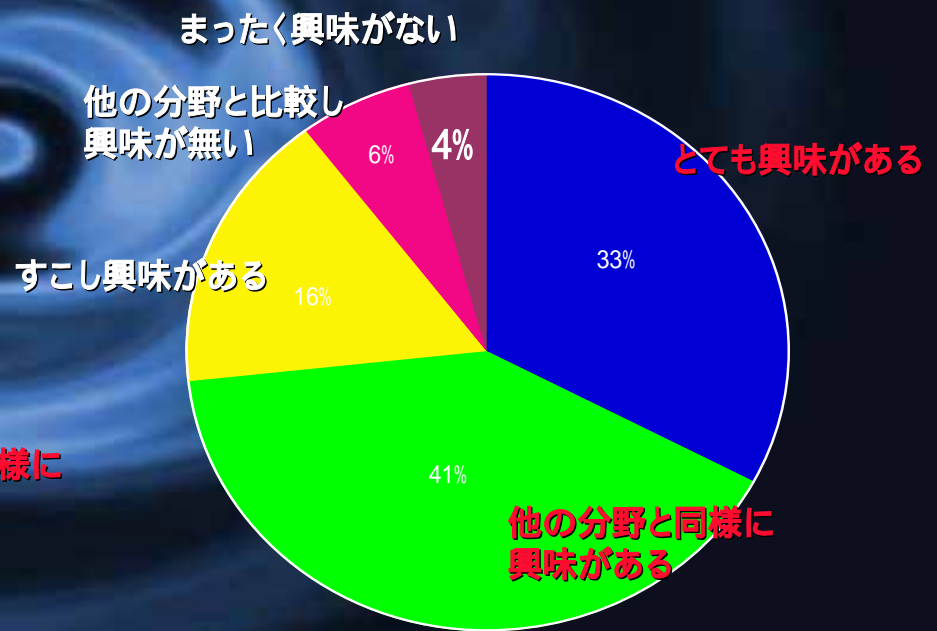
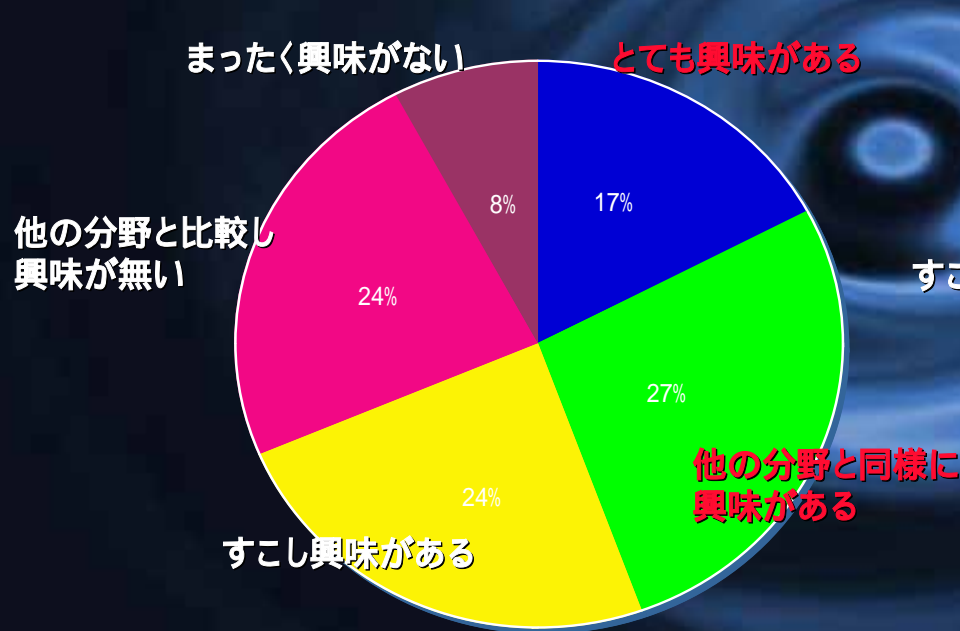
循環型合宿研修実施体制



周生期に対する興味度

男子学生169人

女子学生49人



《4-6年生全体》

興味のある研修機関

全体

男子学生
162人



女子学生
50人

